

選考経緯及び選考理由

国立大学法人お茶の水女子大学学長選考・監察会議（以下「選考会議」という。）は、国立大学法人お茶の水女子大学学長選考規則（以下「規則」という。）及び同実施細則に基づき、令和8年6月1日に学長選考の公示及び学長候補者の基準を満たすと認められる者の推薦受付の公示を行い、7月1日から7月31日までの間に推薦を受け付けたところ、加藤美砂子氏、安成英樹氏（50音順）の2名の推薦があり、書類審査を行い、いずれも規則第3条に掲げる学長候補者の基準を満たしていることから、学長候補適任者として選考した。

これら2名の学長候補適任者について、9月2日に意向調査管理委員会が意向調査の公示を行い、9月9日の所信表明会を経て9月16日に意向投票を行ったところ、投票資格者299名中266名の投票があり（投票率89%）、うち有効投票は264票であった。得票数は、加藤美砂子氏138票、安成英樹氏126票であった。

選考会議は、9月29日に当該学長候補適任者との面談を行うとともに、推薦書、推薦理由書、推薦者名簿、所信表明書、経歴書並びに所信表明会の状況及び意向調査結果を踏まえ、学長選考基準に掲げる「求められる学長像」に照らして総合的に審議を行った。

選考会議は、両氏ともに学長候補者に相応しい人格識見を持った者であると判断した。そのうえで慎重に審議を重ねた結果、加藤美砂子氏を次期学長候補者として決定した。

加藤美砂子氏は、お茶の水女子大学がこれまで築き上げてきた伝統を受け継ぎつつ、教育・研究の力を高め、「知を蓄える大学」から「知が巡る大学」へと発展していくことを目標に掲げている。同氏は、その実現に向けた具体的なビジョンと大学運営の経験を有するとともに、外部資金の獲得、産学連携、資産活用等による経営基盤の強化や、大学・附属学校園・事務組織の知を結ぶ「新しいオールお茶の水」の構築にも意欲的であると認められる。同氏のリーダーシップのもとで、お茶の水女子大学の更なる発展を実現することができる判断し、規則第10条の規定に基づき、同氏を国立大学法人お茶の水女子大学の次期学長候補者として決定したものである。